

NPO 法人フォレストーズかがわ 2020 年度通常総会  
活動報告・計画要旨

■2019 年度活動報告について

まず、活動のメインである「森林づくり」と「環境教育」について。森林づくり活動は数年来続いている琴南の森、しばらく休んでいた屋島の森の再開、装い新たに大福院の森、新規に克軍寺の森が加わり、4つの森林フィールドで活動しました。ヒノキの人工林、特用林産の雑木林、多様な植生の境内林、市街地近郊の里山林と多彩な森林と関わりました。会員・会友は好みの森に足を運び、それぞれの力量にあった方法で森を整備し、楽しく活動しました。定款に謳う「森林づくり活動や環境教育活動などを通し、地域の環境保全に寄与する」この目的の下、発足 15 年目となる活動に臨みました。

環境教育活動については、子供たちに木や森のことを伝える里山ふれあいプロジェクトが 8 年目を終えました。対象は保育園児や幼稚園児で、こちらが出向くスタイルでたくさんの子供たちとふれあっています。香川県から委託を受けて行うみどりの学校は森林フィールドで 6 回開催しました。これは一般参加を募り、会員の持つスキルを活かして互いに学ぶ場をつくっています。

協働協力活動は他団体の支援やイベント出展などで、今年度も各種事業に参加しました。新に加わったのが男木島での果樹畑の再生事業で、いままでと少し違った視点になり、これからの展開が楽しみです。2019 年度は全県的なイベントが無かったせいもあり、行政や他団体との意見交換の場である「県民参加の森林づくり連絡会議」の開催が例年よりも少なくてやや残念な思いでした。

■2020 年度活動計画について

2020 年度の活動計画は基本的に前年度を踏襲しています。ただコロナ禍の影響で序盤の活動は縮小せざるを得ない状況ですが、森の活動については比較的影響は少ないと思われるので、できるだけ実施の方向です。森林フィールドでは新たに竹林整備が加わり、「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」を受けて実施します。

今後も森林の保全整備と普及啓発（森のファンを増やすこと）の二つの方向性をもって活動を展開します。またマンパワーの充足は不断の課題として新たな人材を求めたいと思います。かつて「フォレストーズかがわ」をつくるにあたり、創設者の石川孝氏は「森の仲間たち・舩」を創立の理念とし、そして私たちは「森林は未来からの預かりもの」を継承理念に掲げて今後もフレキシブルに活動してまいります。